

# 酒田駅前まちづくり シンポジウム

まちづくりと図書館の関係とは？

2017.12.10(日)

酒田市公益研修センター大ホール（東北公益文科大学内）

# 当日のスケジュール

- 1 開 会 13:30
- 2 あいさつ 酒田市副市長 矢口 明子
- 3 基調講演 13:40~
  - (1) 演題 「武蔵野プレイス ～新しいタイプの公共施設を目指して～」  
講師 公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団理事長 前田 洋一 氏
  - (2) 演題 「子どもの声は未来の声 ～本がひととまちをつなぐ～」  
講師 岐阜市立図書館館長 吉成 信夫 氏
- 4 パネルディスカッション 14:50~  
「酒田駅前のまちづくりと魅力あふれる新しい図書館を目指して」
- 5 閉 会 16:30

酒田駅前再開発の現状については、平成 28 年 6 月に事業者が決まり、現在、設計作業を進めています。

民間と公共施設の合築、複合施設になっています。公共施設部分であるライブラリーセンターは、現在の中央図書館を移転します。

本日は、新しい図書館づくりを通じてまちづくりに取り組む「図書館を核としたまちづくり」の先進事例 2 つの講演とパネルディスカッションを行います。なぜ駅前に図書館なのか、何を目指しているのか、酒田のまちづくりをどうしていくのか、みなさんと議論し、共有できる機会にしていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。





## 【基調講演者・パネリスト】

前田 洋一氏

(公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団理事長)



昭和53年武蔵野市役所入庁、以後市民部、総務部、企画部、教育委員会（新中央図書館建設に携わる）、平成18年企画政策室新公共施設開設準備担当課長、平成20年教育委員会教育部参事兼武蔵野プレイス開設準備室長、平成23年公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団へ派遣（常務理事兼武蔵野プレイス館長）、平成25年武蔵野市役所議会事務局長、平成27年事業団理事長就任し現在に至る。

## 【コーディネーター】

野末 俊比古氏

(青山学院大学准教授)



学術情報センター助手、文部省社会教育官、青山学院大学文学部専任講師・助(准)教授、国立情報学研究所客員助(准)教授などを経て、現職。2010~11年英国シェフィールド大学情報学大学院に客員准教授として滞在。国・自治体・大学の図書館関係の委員・研修講師を多数担当、現在は日本図書館協会図書館利用教育委員会委員長、調布市図書館協議会委員長などを務める。専門分野は図書館情報学・教育情報学、関心領域は情報リテラシー教育・図書館政策など。

## 【パネリスト】

中原 浩子氏

(東北公益文科大学特任講師)



庄内を舞台にした映画「おくりびと」をきっかけに酒田市に移住。株式会社ベネッセコーポレーション幼児通信教育部、学習塾アクアランゲージスクール代表、庄内町観光協会観光専門員、ホテルリッチ&ガーデン酒田 庄内大好きプロデュース室室長を経て、2014年から東北公益文科大学特任講師。同大学生で組織された酒田おもてなし隊の大隊長。酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会委員。

## 【基調講演者・パネリスト】

吉成 信夫氏

(岐阜市立図書館館長)



東京のコンサルタント会社役員などを経て、1996年岩手県東山町（現一関市）に家族とともに移住。1997年~2000年、同町の「石と賢治のミュージアム」研究員を務め、企画構想段階から事業を推進。2001年、廃校を利用した「森と風のがっこう」を開校、2001年から7年間、県立児童館「いわて子どもの森」初代館長を務めた。NPO法人岩手子供環境研究所（森と風のがっこう）理事長を務め、平成27年4月から岐阜市立図書館館長。

## 【パネリスト】

倉田 直道氏

(工学院大学名誉教授)



CDI、都市計画連合アトリエ、カリフォルニア大学都市地域開発研究所、HKSアソシエイツ（サンフランシスコ）、工学院大学建築学部まちづくり学科教授などを経て現在、工学院大学名誉教授、(株)アーバン・ハウス都市建築研究所 代表取締役 酒田駅周辺整備事業者選定委員長、酒田駅周辺整備調整会議委員。

## 【パネリスト】

小林 凜生さん、金野 龍さん (酒田光陵高校生徒会)



校訓「進取 創造」のもと、「一人ひとりが輝ける未来」を目指して、教育活動を展開。「地域起点」をキーコンセプトとし、「公益」「環境」「国際化」「情報」をキーワードとして、総合選択制による新たな「まなび」ができる学校、スポーツ・文化活動の充実した学校、地域との連携や交流を推進する学校、変化する社会に対応できる人材の育成を目指している学校である。

基調講演

# 前田 洋一氏

公益財団法人武蔵野生涯振興事業団理事長

「武蔵野プレイス  
～新しいタイプの公共施設を目指して～」



## 武蔵野プレイスとは

平成 23 年開館。昨年度の年間来館者数が 195 万人を記録した。東京都武蔵野市の武蔵境駅から徒歩 1 分に立地。武蔵野プレイスの正式名称は、「武蔵野市立ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス」。

### 4つの機能

図書館

市民活動支援

青少年  
活動支援

生涯学習事業

▼ 連携・融合

**新しい価値を生み出す、一歩上の付加価値サービスを**

**提供できる新しいタイプの公共施設**

配置の工夫をし、複数の機能が集まるメリットを最大限に活かした施設とした。

→ 従来型の公共施設の枠組みを超えて、利用者の多様な活動や利用に応じ、個々の機能の役割を越えた新しいサービスを提供することを目指した。機能が相互に連携し、幅広い市民による交流の「場」となるようにした。



## 「滞在型図書館」を目指す 武蔵野プレイスの7つのキーワード

### ① 目的利用から状況利用へ

開館時間を長くしたり、カフェを設置したりして施設自体に魅力を持たせ、目的がなくともふらっと立ち寄ったり、状況に応じて施設を訪れる人を増やした。職員のミッションは、さまざまな目的をもった利用者がさまざまな「居方」、過ごし方を可能にすることである。

### ② 新たなターゲット

ビジネスワーカーにも利用して欲しいという思いから、図書持込可能でアルコールも提供するカフェや書斎のようなワーキングデスクなどさまざまな場を用意した。

### ④ 貸出、返却などの自動化

司書が利用者の声をじっくり聞けるよう、機械でできることは機械へ任せている。当日返却された本を見える化した仮置きコーナーも好評である。

### ③ 賑やかな図書館

いろいろな使われ方をするために、1階はミニコンサートもできる多目的な空間、2階の児童書コーナーは1階の音が吹き抜けを通して入ってくるなど、従来の図書館にはない空間とした。

### ⑤ 雑誌タイトル数の充実

雑誌の即時性や専門性、娯楽性に着目し、約600誌の雑誌が多くの方に利用されている。

## ⑥敷居をさらに低く

市の緩やかな窓口の1つとして、ちょっとした課題解決の受け皿となるようなウェルカムな雰囲気作りを大事にしている。

## ⑦青少年へのアプローチ

実は、青少年の居場所となる公共施設が意外と少ない。青少年フロアは最低限のルールとし、お喋りや勉強、飲食可などそれぞれが自由に過ごせることで楽しい空間になっている。

## 他にも・・・

「利用者の声コーナー」を1階の1番良い場所に設置。要望に対してほぼ全て回答している。開館当初は1階のカフェへの反対意見が多かったが、丁寧にミッションを説明し続けることで、応援してくれる市民が出てきて、職員の励みとなった。

**貸出冊数 100万冊（プレイスのみで）**  
**（蔵書数 市内3館全体で90万冊）**

**貸出冊数 > 蔵書数**  
**極めて異例な現象**

利用者の役に立つ施設、未永く愛される施設を目指して、利用者が施設内のさまざまな機能を違和感なく利用できるよう敷居を低くし、日常に密着した施設となるよう、これからもがんばっていきます。





基調講演

# 吉成 信夫氏

岐阜市立図書館館長

「子どもの声は未来の声

～本がひととまちをつなぐ～」



平成 27 年 4 月に全国公募に応じて「ぎふメディアコスモス」の中にある中央図書館を含めた岐阜市立図書館の館長に就任。

## ぎふメディアコスモス

平成 27 年 4 月に開館。開館 1 年目で 120 万人を越す利用者で賑わっている。図書館を中心に、市民活動センター、ホール、アートのアトリエや飲食店、コンビニ等からなる複合施設で、岐阜市の中心市街地に立地している。なぜこの場所だったかということ、衰退した商店街に住み着き始めた新しいまちづくりをしている若い人達など新しい人の対流を中心市街地におこすためである。そこで、「滞在型図書館」を目指した。

**図書館の方針**・・・市民に寄り添った、身近な「滞在型図書館」

**モットー**・・・ここにいることが気持ちいい、何度でもここに来たくなる、  
いつまでもここにいたくなる

## 図書館の理念

・・・子どもの声は未来の声

赤ちゃんから高校生に至るまで、子どもたちの育ちを末永く見守る場所でありたい。利用者の方の理解もいただきながら、お子さんが少しざわざわしても一緒に見守る。それと同時に、親が子どもに公共の場のマナーを教える場としてもらいたい。図書館は「公園であり、広場である」という考え方である。

「親子のグローブ」と呼んでいる場所は、見渡しはきくが包まれている感じがして、お母さんたちの社交場になっている。午前中から混み、親子で本を読んだり、ゴロゴロしてもよく、家のリビングや縁側にいるような感覚で過ごせる空間にしている。

## 当初掲げた方針

### 次世代型図書館の6つの柱

#### ① 企画イベントの実施

- ・ 効果的な集客イベントによる話題の喚起
- ・ 日常的連続イベントによるメッセージ発信

#### ② 子どもの育成/サードプレイス

- ・ 読書の重要性啓発
- ・ 学校図書館の活性化

#### ③ 郷土の魅力

- ・ 郷土資料の充実
- ・ 特色あるアーカイブコレクション

#### ④ ビジネス支援

- ・ 起業ニーズの発掘
- ・ 創業支援に関する資料提供

#### ⑤ 本がつなぐひと・まち

- ・ 周辺地域への来館者の回遊の促進
- ・ 本を通じた人材発掘

#### ⑥ 図書館ベース事業

- ・ 図書館連携
- ・ 分館との企画連携
- ・ 司書の選書力及びサービスの向上

### 図書館機能



① 「まちとつながる ひととつながる (=市民と一緒に図書館を作っていく)」

② 「学校と図書館の連携」

結果...

40歳以下の利用割合

30%弱 → 58.7%へUP

開館1年目で

123万3965人来館

※目標100万人

図書館らしい図書館ではなく、まち全体としてどうなったか、まちなかとどういう関係が作れるのか、図書館や本を通じてどんな楽しい人に出会えるのか、などを考えられる図書館にしたい！来場者数が多いから OK というわけではない！

### 具体的な活動

- ・朝のブックトーク
- ・書架のディスプレイ
- ・館長に手紙が出せる郵便局
- ・こども司書の育成
- ・わんこカートの制作、投入
- ・文学散歩マップ
- ・POP 作り  
(ヴィレッジバンガードを目指す)
- ・ビジネス相談 など

図書館から離れてしまった人を振り向かせたい！

図書館以外に本を置くスペースがあって、本で人をつないだり、会話できたりするスペースがそこらじゅうにあるまちにしたいです。これからの図書館に必要なのは、「デザインができる司書」と「歌って踊れる司書」です。そうしたら図書館は楽しくなりますよね。





## パネルディスカッション

# 「酒田駅前まちづくりと魅力あふれる 新しい図書館を目指して」

コーディネーター：野末俊比古氏

パネリスト：前田洋一氏

吉成信夫氏

倉田直道氏

中原浩子氏

小林凜生さん

金野龍さん

パネルディスカッションでは、テーマである「酒田駅前まちづくりと魅力あふれる新しい図書館を目指して」の「魅力あふれる」というところについてパネリストのみなさん、会場のみなさんと一緒に考えました。

また、前田理事長と吉成館長の講演を聞いて、酒田にどう活かしていくかを考えました。



野末先生

まず、まちづくりにおける公共施設の役割について考えてみましょう。今回の**酒田駅前の再開発全体の概要、事業の狙い、それから公共施設である酒田コミュニケーションポートの役割、そこにかける思い**などを倉田先生からお話いただきます。

衰退した駅前を活性化するために再開発をしても、うまくいくとは限らないのが現状です。しかし、酒田市のように図書館を入れたことで、人が集まる場所になったという事例をいくつか見えています。老若男女から1年を通じて常に利用される図書館は、まちづくりという観点から非常に適切な施設だと感じていました。酒田市の施設配置の1番大きなポイントは、**広場を中心に持つことで、人々の居場所として繋がるようにしたことです**。また、図書館のポイントは、市民の皆さんが気楽に立ち寄れるよう、広場に面する側に縁側や土間のような、**外部と繋ぐスペースを設けた**ことです。図書館が職場と家庭の間にあるもう1つの居場所になるように、「**人が主役**」の**図書館**にすべきだと思います。



倉田先生



ありがとうございました。滞在型を目指すということは、滞在する人がどう動くかをデザインするということだと思います。次に、中原先生からは公共施設の**ソフト面**についてお話していただきます。

今回の駅前再開発は、図書館をつくるということではなく、「コミュニケーションポート」です。コミュニケーションとは、人と人がつながることです。**人、情報、知恵、知識、そしてみなさんがお持ちのスキル、技術、夢や思いが集まる場所、それが駅前にできるのだと思っています。それをつくるのは、私たち市民です。**行政だけではできません、みなさんと一緒になってつくっていきましょう。武蔵野市や岐阜市の素晴らしい前例をもとに、せっかくだから「ありきたり」ではないものをつくりましょう。観光の視点から言うと、この図書館がデスティネーション（目的地）として、他の土地の人がうらやむ、ここに来てみたいと思うような場所をつくればと思います。



中原先生



コミュニケーションポートの中の図書館はライブラリーセンターと呼ぶんですね。何か思いがあったのでしょうか。

「図書館」と言ってしまうと、どうしても本を借りて返すだけの1つの役割を想像してしまう。コミュニケーションポートの中のライブラリーセンターということで複合的な役割を担えるのだと思います。





ありがとうございました。

前田さんと吉成さんに、**図書館を中心とした公共施設がまちづくりにどのように関わっていったのかと、酒田の計画に対する感想やコメント**をいただければと思います。

酒田市の計画を拝見して、私たちと通ずるところが多いと感じ、仲間が増えたようで嬉しく思っています。

武蔵野プレイスとまちづくりの関係ですが、**武蔵境駅前の立地を生かしたことが大きい**です。**施設ができたことでまちのイメージもアップし、住民も誇りを持ち、まち全体が活気づいてきた**ように思います。

部下たちによく、「この施設ができることで武蔵境地区の地価をあげようじゃないか」と言っていたのを思い出します。



前田先生

ぎふメディアコスモスは、中心市街地の1番北側に施設があり、駅から歩くと30分かかります。**地の利があることは非常に重要で、酒田市の計画は駅前ということですから、良く、羨ましい**と思います。

酒田のまちにあるもの、地元を掘っていくといろんなものが見えてきます。宝の持ち腐れにならないよう、**図書館に蓄えながらも新しい時代に合わせて分かりやすく伝えていくこともライブラリーセンターの「メディアとしての役割」**だと思います。



吉成先生





ありがとうございました。

会場の皆さんより、画面上（※）にたくさんの質問やご意見をいただきましたが、「**若い人や子どもたちが笑顔で過ごせる場所になってほしい**」という意見がみなさんの賛同が多いですね。

倉田さん、中原さん、これまで**計画を作ってきた中で、若者や子どもたちへの思い**はどんな議論があったのでしょうか。

細かいところはまだ検討中ですが、子どものスペースのすぐ隣には大人のスペースもあるような、**市民の方が気楽に立ち寄れる空間を作りたい**と思っています。先程、吉成さんの講演にあった、相互にそこで見守る関係も生まれるだろうと思います。

**1つのスペースをいろいろな目的で上手に使う**、最近はそれを「**重ね使い**」と言います。**限られたスペースを利用する中で、新しい人のつながりが生まれることを期待**しています。



**お子さん連れのママさんたちが遠慮なく、子どもたちが泣いてしまうのが怖くて行けないことがないように、気にしなくていいような場所**になってほしいです。



※イマキクというシステムを使い、来場者の方が携帯電話から投稿した意見がスクリーン上に表示されています



今世の中で注目されている図書館のほとんどすべてが**複合施設ですが、うまく運用していく、活用していくポイント**を前田さんと吉成さんにお伺いします。

一番手っ取り早いのは**「組織を一つにしてしまう」**ことです。各々の担当は同僚ですから、基本的にコミュニケーションは担保できます。可能でしたら組織を一つにする、もしくは緩やかな集合体にする**ことで連携の可能性は高まる**と思います。



当館は開館してまだ約2年半なので、連携できているかというところでもありませんが、**市民の力を使いながら、だんだんと周りの課とも連携を進めていく**、その途上にあるという感じだと思います。



ありがとうございました。

**施設内だけでなく、コミュニティ全体で連携する時代に入ってきている**んですね。続いて、パネルディスカッション2部に移りたいと思います。**2部では、「魅力あふれる新しい図書館について考える」ということで最初に光陵高校生のお二人に学校のみんなで考えたことをプレゼン**してもらいます。



私たち光陵高校生徒会執行部は、**どのような場面でライブラリーセンターを活用するか**話し合いました。

登下校で電車を使っている生徒が多いので、**時間をつぶしたり、放課後に友達と遊んだり、テスト勉強や調べ物などで使用したい**と考えています。

**ライブラリーセンターに欲しい機能は、子どもたちを対象にしたヒーローショーを開催すれば、家族連れが足を運ぶ機会になる**と思いました。

他にも、**電子書籍（タブレット）、アスレチック、本の消毒機、お絵かきコーナー**などが挙がりました。

資格取得のための参考書やレポート作成などができるように**有料の印刷機やコピー機が置いてあったり、部活後に休めたりする場所**があると良いと思います。



小林さん、金野さん



ありがとうございました。

**今の発表を聞いて、いいなと思ったところ、あるいは施設全般でも構いませんので意見を伺いたい**と思います。まずは、中原さんどうでしょう。

**フリーWi-Fi**は高校生も大学生も必要ですね。大学生に聞くと、**手紙を書くスペースや庄内の景色が見えたり、歴史が感じられる仕掛け**があると良いのではという声がありました。





前田さんと吉成さんにお伺いしたいのですが、**ビジネスへの支援**、あるいはもう少し広く「まちづくり」とか「まちおこし」とか、そういうことへの支援についてはどのような方針、**コンセプトの議論**があったのでしょうか。

武蔵野プレイスは図書館としては分館なので、たくさんの本や専門的な本を置くのではなく、**ビジネスマンの居場所を確保しよう**ということで、**ワーキングデスクを設置**しました。やりたいことが少しでも完結できるような仕掛けをつくっています。



レファレンスコーナーに週2回、県からコーディネーターとして中小企業診断士の資格を持った人を派遣してもらい、**よろず相談**を行っています。起業の相談が本格的になってくればコーディネーターの仕事ですが、その前段階の相談、**主婦が気軽にやれるようなレベルの起業を守備範囲**としています。さらに本格的になってきたら、専門の部局に行ってもらおうよう紹介しています。図書館は相談がしやすいので、1年目は県の出先機関の倍の相談が来ました。広場がありますので、お店を出すお金がなかったら広場を貸しますよ、というノリでやっています。見えている場所で完結できる面白さがあります。








**図書館でなく、民間や市の部局と連携しながらやることもポイント**かと思います。倉田さんと中原さんにもお聞きしますが、**ビジネス支援や資格の取得支援等**については、これからどのように考えていますか。

すでに酒田の中にあるので、ライブラリーセンターにコワーキングのような限定されたスペースを設ける必要はないかもしれません。職場でも家でもない、カフェのようなところでちょっと仕事をしようかという感覚はあると思うので、高校生が勉強をしている場でビジネスマンも仕事ができる、**場所をシェアするようなことはあってもいい**と思います。勉強やセミナー、ちょっとしたイベント等**いろいろなことに利用できる場所になれば人が主役の図書館になる**と思います。**市民が積極的に運営に参加する図書館になるといい**と思います。



**市民が運営に関わってみんなで作っていくのが大事**だと思います。コワーキングスペースについては、大学にもありますし、ライブラリーセンターには場はなくても、**つないであげる人がいればいいのかな**と思います。





つなげていく、まさにハブのような役割になっていくということですね。高校生の発表に、**少人数で利用できるスペース**という話もありましたが、**これもかなり重要なポイント**かなと思います。情報をインプットするだけでなく、活用して発信する場面も図書館に求められていて、典型的に現れるのがイベントスペースだと思います。活動が見えることで地域の人にもわかります。**「見る—見られる」の関係、コラーニング**といいますが、**お互いに何をやっているかが緩やかに見える関係、こんな使い方もある、この活動はイイネ、とお互いに見えることで活動を高めていくことが、最近の公共図書館では行われ始めている**と思います。**図書館は目的ではなく、手段**です。利用者のみなさんのために図書館はあるので、みなさんの夢を実現していくためのものとして、いい図書館ができると思います。では、最後にパネリストのみなさんから一言ずついただきたいと思います。

**図書館はまちづくり**だと思っています。まちづくりという言葉のほか、最近では「**まちづかい**」という言葉が使われたりします。**図書館を自分たちのものとしてどのように使っていくか、市民のみなさんに参加していただきながら取り組んでいただけたら**と思います。みなさんの知恵で酒田らしい図書館にしていいただきたいと思います。



みなさんの夢や思いをこのライブラリーセンターを使って実現していきましょう。できればみなさんが運営側にまわって、一緒になっていいものをつくりましょう。



図書館と他の機能をうまく組み合わせることで、まちづくりにとって、ものすごいパワーが生まれます。

**器ができたら、その器に魂を込めるのが市民のみなさん**だと思います。**市民のみなさんが主役**です。この施設が家でも学校でも職場でもない、第三の場所として市民に密着した、無くてはならない憩いの場、ワクワクする場になることを祈っています。



間違いなく、**夜の図書館はデートスポット**になります。あと、**鳥海山はやはりキーワード**になります。岐阜は岐阜城のあった金華山です。金華山が見えるところが外に出られるようになっているので、夜にちょうちんをつけると岐阜城が浮かび上がってくる。鳥海山をどう使うか、とても楽しみです。



自分たちは高校生だけで話し合いましたが、いろいろな年齢層の人たちの話も聞いて貴重な体験になりました。

最後に校長先生から、これだけはアピールしてきて！と言われたのですが、光陵高校の生徒は委員会でいろいろなボランティア活動をしています。公園ボランティア、森林のごみ拾い、河川掃除、インターハイの補助員もやりました。毎年、酒田まつりのお手伝いもしています。

**ライブラリーセンターができれば、施設の役に立てるよう協力していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします！**



## 最後に 図書館長から一言

本日はパネリストのみなさん、会場にお集まりのみなさん貴重なご意見ありがとうございました。新しい図書館は、ハブ空港として市民や団体などいろいろな方が集まって、さまざまな情報を発信するようになっていかなければと思いました。みなさんのご助言をいただきながら、市民のハブとなれるよう頑張っていきたいと思います。





たくさんのご来場ありがとうございました。  
シンポジウムの詳細については市 HP よりご覧ください。

<http://www.city.sakata.lg.jp/shisei/shisakukeikaku/kikaku/ekishuh/en/toshishinnpo.html>



酒田市企画振興部都市デザイン課

